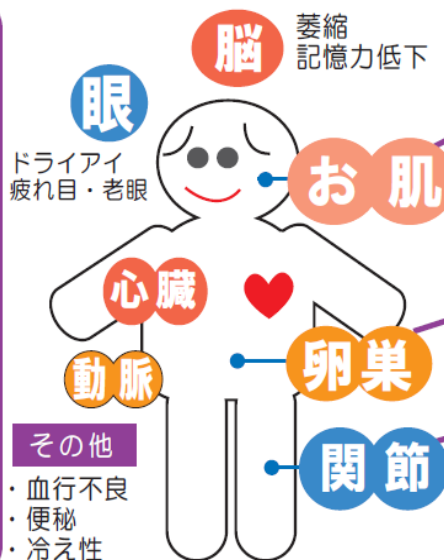


ヒアルロン酸、足りていますか？

◆**ヒアルロン酸が特に多い部位**
(特に多いところは特に不足になりやすい)



カサカサ・シワシワお肌・シミ 真皮中のヒアルロン酸が減ることで、肌のみずみずしさが失われコラーゲン線維も緩んで皮膚がたるみがちになります。また、表皮においても代謝という大切な役割を担っていますので、代謝が衰えた肌は古い角質が残り、凸凹のお肌になります。

生理痛・生理不順 生理痛は子宮を収縮させるプロスタグランジン（ホルモン）の異常分泌が原因といわれています。ヒアルロン酸はその異常分泌を抑え、痛みを緩和する作用があるといわれています。

関節痛・肩こり・腰痛 ヒアルロン酸の不足による水分の減少で、関節におけるクッション機能が低下し、軟骨の摩擦、などが生じます。また、ヒアルロン酸は血行をよくする働きがあるので、血行不良による腰痛や肩こりにも有効です。

人体でヒアルロン酸が特に多く含まれているのは、皮ふ、関節腔、眼、脳、心臓弁、動脈、卵巣、精液です。

これらにおいてヒアルロン酸が不足してくるとシワやかサツキ、関節炎、老眼、脳の萎縮等の現象が生じやすくなります。お肌のみずみずしさと張

りを支えるヒアルロン酸は若いうちは体内で活発に作られますが、年齢を重ねるとともにヒアルロン酸の生成を助ける酵素の働きが低下し新陳代謝が衰えるので、体内の生成力も弱くなります。

当然、真皮が老化します。お肌はしだいにみずみずしさを失い、肌荒れ・シミ・シワができてやすくなります。

ヒアルロン酸とは？

私たちの体は水分と約100兆個の細胞、そしてその細胞と細胞の間を細胞外マトリックス（ECM）という体液で埋めることによって人間の体形をしっかりと保っています。

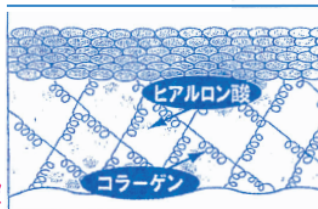
この細胞外マトリックスはコラーゲンと、ヒアルロン酸をはじめとするムコ多糖類からなり、体のしなやかさを保つだけでなく、体内のいたるところで絶えず代謝を繰り返すことで、細胞の働きを高め、細胞の活動を調節します。ムコ多糖類の中でもヒアルロン酸は体内の水分を保持するチャンピオンで、その驚くべき保水能力はコラーゲンの約100倍、1gで6リットルです。

最近ではその保水性が注目され高級化粧品や医薬品など幅広い分野で用いられています。

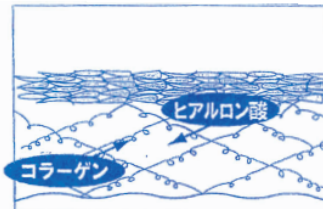
(a) ぷるぷる肌

(b) カサカサ・シワシワ肌

表皮
真皮
皮下組織



ヒアルロン酸が多く含まれ水分も十分保っているため、皮膚表面も十分に潤っている。



ヒアルロン酸が減少し、水分が少ないため、肌のハリも少なく皮膚表面が乾燥している。

話題沸騰 ヒアルロン酸は真皮の老化予防

ヒアルロン酸

超低分子がいい

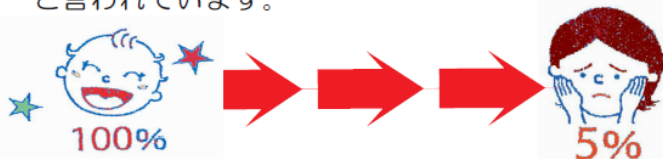
細胞と細胞の間をつなぐ水分を保って肌に潤いとハリを与える

「超低分子3000」体内に吸収さ真皮が若返る

加齢とともに減っていくヒアルロン酸

女性にとって理想的なお肌とは、赤ちゃんのようにぷよぷよしてみずみずしく、弾力のある美しいお肌です。しかし、年齢を重ねるとともにハリ・ツヤがなくなり、シワが目立ってきます。

通常、赤ちゃんの皮膚のヒアルロン酸量を100とすると20歳では、その5%（1/20）になると言われています。



20歳
100%

30歳
65%

50歳
45%

60歳
25%



さらに体内のヒアルロン酸の量を20歳のときを100とすると、60歳では25%になります。

皮ふは「表皮」と「真皮」、そして「皮下組織」からできています。皮ふの本体をなすのが、細胞外マトリックスの代表である真皮。その真皮の中でヒアルロン酸は多量の水分を抱え込む働きをします。

ヒアルロン酸を積極的に体内に摂り得ることにより「真皮」が水分を保持し、お肌のハリとみずみずしさを取り戻します。また、細胞の活動や細胞間どうし情報伝達が活発になることで、理想的なホメオスタシスを維持します。